

蛇淵〈じゃぶち〉（洲本市加茂）

加茂の桑間〈くわま〉川をさかのぼって行くと、大野村に通じる山裾〈やますそ〉の辺りの所に、底がわからないほどの深い、すごみをもった淵〈ふち〉がある。その淵〈ふち〉へやってきた、おばあさんと九つぐらいの女の子が話し始めた。

「むかし、ここには、大きな蛇〈へび〉が住んどってな。」

「ほんま？」

「ある夜、大蛇〈だいじゃ〉が永〈なが〉く住みなれたこの淵から天に昇〈のぼ〉ったんや。」

「そんで…」

「その時なあ、この淵からゴウゴウいううなり声が聞こえてきて、およそ一里（四キロメートル）四方にヒョウ（氷）を降らしたんや。」

「どんなヒョウが降ったの？」

「なんとその重さは、八十匁（三〇〇グラム）くらいもある大きなものやった。」

「そんなんが降ってきたら、あたって人たちは痛かったでしょうね。」

このヒョウ（氷）が降ったのは、大野〈おおの〉、金屋〈かなや〉、宇原〈うわら〉、物部〈ものべ〉、内膳〈ないぜん〉、加茂〈かも〉、奥畑〈おくばた〉、納〈おさめ〉、山添〈やまぞえ〉、中筋〈なかすじ〉、など広い範囲である。ヒョウ（氷）も最後には豪雨〈ごうう〉になって、人家もつぶれそうに思われる位降りつづき、一時はあたり一面海になってしまった。

